

岡山県農林水産総合センター農業研究所は、緑色発光ダイオード(LED)灯が桃害虫のモモノゴマダラノメイガ、いわゆる夜ガに対し被害抑制効果があることを確認した。6月上旬から7月中旬の夜間

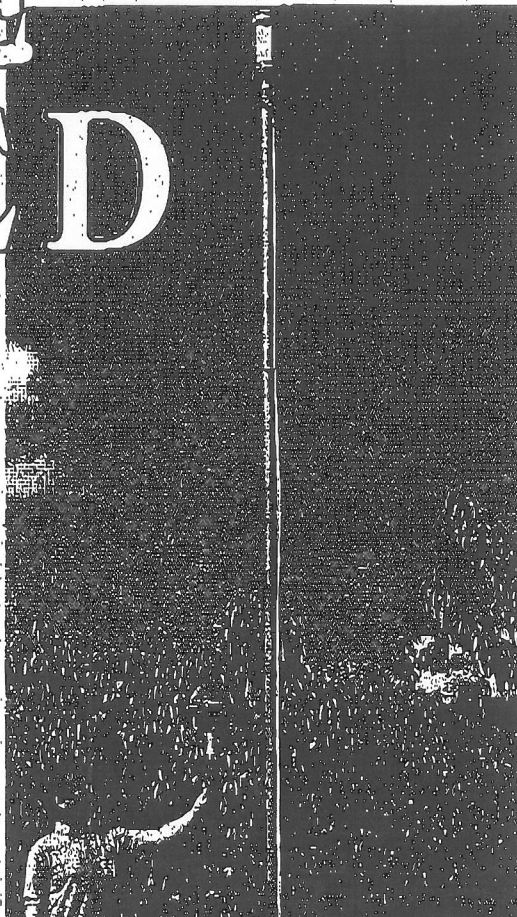
に点灯し、空間照度を1.3ℓ以上確保すると効果がある。補助灯を設置して光のむらがなくすとさらに効果が高かった。緑色の光なので稲に対する光害がなく安心して使えるという。

# 桃害虫 夜ガ 寄せ付けず

## 緑色 LED

### 照度1.3ℓ超

岡山農研



桃園に設置した緑色LED主灯と、発光部を上向きにして高さ2ℓに設置した補助灯（岡山県赤松市の県農林水産総合センター農業研究所で）

## 補助灯設置で 稲への光害なし

モモノゴマダラノメイガは幼果の表面に卵を産み、幼虫が果実内に入り込み果肉を食害する。防除手段としては黄色蛍光灯が普及し

ている。夜間に点灯し、夜間は稲への光害がなかった。試験には「清水白桃」の成園を使い、緑色LEDを設置して3年間のデータをまとめた。緑色LEDは発光

部が地上から5.5〜6ℓに設置してから年がたつにつれて蛍光灯は暗くなると、夜ガを防ぐ効果も落ちる。また蛍光灯と隣接している水田では、稲が光に反応して出穂が遅れる、いわゆる光害の課題があった。LEDは長い期間使っても明るさが落ちにくく、消費電力も少なくて済む。緑色の光は稲の出穂遅れも起こしにくい。緑色のLEDが商品化され、普及していることから、同研究所では黄色蛍光灯の代わりに使えないか、効果を確かめることにした。

明るさが1ℓ以上あれば黄色蛍光灯の効果はあるが、設置してから年がたつにつれて蛍光灯は暗くなると、夜ガを防ぐ効果も落ちる。また蛍光灯と隣接している水田では、稲が光に反応して出穂が遅れる、いわゆる光害の課題があった。LEDは長い期間使っても明るさが落ちにくく、消費電力も少なくて済む。緑色の光は稲の出穂遅れも起こしにくい。緑色のLEDが商品化され、普及していることから、同研究所では黄色蛍光灯の代わりに使えないか、効果を確かめることにした。

部が地上から5.5〜6ℓに設置してから年がたつにつれて蛍光灯は暗くなると、夜ガを防ぐ効果も落ちる。また蛍光灯と隣接している水田では、稲が光に反応して出穂が遅れる、いわゆる光害の課題があった。LEDは長い期間使っても明るさが落ちにくく、消費電力も少なくて済む。緑色の光は稲の出穂遅れも起こしにくい。緑色のLEDが商品化され、普及していることから、同研究所では黄色蛍光灯の代わりに使えないか、効果を確かめることにした。